NPO法人　地球環境共生ネットワーク発行

U-net通信

2025年9月
Vol.142

あとから来る者のために
坂村　真民

あとから来る者のために
田畑を耕し
種を用意しておくのだ
山を
川を
海を
きれいにしておくのだ
ああ
あとから来る者のために
苦労をし
我慢をし
みなそれぞれの力を傾けるのだ
あとからあとから続いてくる
あの可愛い者たちのために
みなそれぞれ自分にできる
なにかをしてゆくのだ

発行：NPO法人地球環境共生ネットワーク　〒９０１-２３１１　沖縄県中頭郡北中城村字喜舎１４７８番地　TEL:098-923-2600　FAX:098-923-2611　　編集人:U-net 発行人:比嘉照夫

令和7年　第4回　EM技術セミナー

Ｕ－net会員対象の第4回EM技術セミナーが9月5日にオンラインで開催されました。
今回は、「世界EM団子の日　ワールドフェスティバル　2025」に係る活動報告を6名の方が発表してくださり、その後に、ユニバーサルビレッジモデルプロジェクト進捗報告を1名の方が、「真・EM生活」について1名の方が発表してくださったので、発表内容をご紹介します。

「世界EM団子の日　ワールドフェスティバル　2025」

EM88実行委員会　青山真紀

本日は、世界EM団子の日ワールドフェスティバルに参加された方々の中から、沖縄県、東京都、愛知県、三重県、ハワイから結果報告をして頂き、最後に私の方でまとめの結果報告をさせて頂きます。

～沖縄県4団体の結果報告～

地域応援団おおとり会　代表　喜友名秀樹

沖縄県、地域応援団おおとり会、代表の喜友名秀樹(きゆな　ひでき)と申します。沖縄県からは4団体が取組みました。では、結果報告をさせて頂きます。

参加団体、運営、ボランティア含めて総数83名の皆さまがご参加くださいました。EM団子を1,420個、EM活性液を1t投入しました。投入会場は比謝川上流にある沖縄こどもの国　水とみどりの広場バックステージです。

EM88フェスタ・オンタイム参加状況

	団体名	人数	EM団子の数
①	読谷村横田自治会	16人	300個
②	沖縄市福祉文化プラザ児童センター ファミリークラブ結	21人	320個
③	北谷町子ども会育成連絡協議会	15人	300個
④	SPC沖縄理美容事業協同組合	8人	500個
総数		83人	1,420個　1トン

【会場】
沖縄こどもの国　水とみどりの広場バックステージ

各団体をご紹介します。①読谷村横田自治会様、参加人数16名、EM団子300個投入。比謝川浄化大作戦への取組みは3年目。「EM88フェスタ」への参加は2回目です。②沖縄市福祉文化プラザ児童センター・ファミリークラブ結様、参加人数21名、EM団子320個投入。比謝川浄化大作戦への取組みは3年目。「EM88フェスタ」への参加は初めてです。③北谷町子ども会育成連絡協議会様、参加人数15名、EM団子300個投入。比謝川浄化大作戦への取組みは2年目。「EM88フェスタ」への参加は2回目です。④SPC沖縄理美容事業協同組合様、参加人数8名、EM団子500個投入。比謝川浄化大作戦への取組みは3年目。「EM88フェスタ」への参加は2回目です。4団体で参加者数60名、EM団子総数1,420個を投入しました。

比謝川浄化大作戦5年目、「EM88フェスタ」2年目を迎え、初めてEM活性液1tを投入しました。EM活性液は我々の活動にいつも協力してくださっていますEM研究機構様からのご提供です。1t投入の様子に参加団体の皆さまも浄化の様子に大喜びでした。右側の写真は全体集合写真です。「EM88フェスタ2025」グリーンの T シャツを着ているのが運営者とボランティアの皆さまです(写真撮影は2団体様がお帰りになった後になってしまいました。大変失礼致しました。)。

比謝川の特徴をご紹介致します。沖縄本島中部に位置し、流域は沖縄市・北中城村・うるま市・嘉手納町・読谷村の5市町村にまたがる全長17km～18km、流域面積約49㎡、沖縄本島で最大の流域面積を持つ二級河川です。【歴史・保護区】河川沿いには、琉球王朝時代の越来城跡、知花城跡、屋良城跡公園等があり、また、下流部は県指定鳥獣保護区に指定されており、歴史的な背景をもつ、緑豊かな自然に恵まれた河川です。【生き物】比謝川の上流は淡水域ですが、河口付近は淡水と海水がまじり合う汽水域で、マングローブの原生林が広がります。そのため多様な水質があり、各ポイントにはさまざまな生き物や天然記念物の生き物が生息しています。【生活水】沖縄本島中部と南部の7市町村の水源として利用されています(北谷町・沖縄市・北中城村・中城村・宜野湾市・浦添市・那覇市の一部)。

我々おおとり会は、EM団子10万個投入を目指し、生活者である地域住民、観光等で来沖なさる皆さまが、自身が使い流す生活水や飲食等からの汚水状況に関心を持ち、使い流しながらもひとり一人が河川水を蘇らせる行動に繋がることを想い描き、日々のEM団子で河川浄化活動に取組んでおります。

2021年より「EM団子で比謝川浄化大作戦」を取組み始め、5年目の8月で延べ56団体の参加、EM団子25,810個、EM活性液1tを投入しました。個人・自治会・学校・地域諸団体・民間事業者の皆さまが共に取組んでくださいました。今年は、浦添市婦人会の皆さまが、EM団子で比謝川浄化大作戦に関心を持ってくださり、見学応援でご参加くださり、来年は一緒に取組みたいというお声が上がりました。引き続き今年の11月～12月も比謝川河川浄化に取組みます。

EM団子で比謝川浄化大作戦

年度	団体数	EM団子数	EM活性液量
2021年	11団体	4,900個	ー
2022年	17団体	5,600個	ー
2023年	12団体	9,880個	ー
2024年	10団体	3,580個	ー
2025年	6団体	1,850個	1トン
総数	56団体	25,810個	1トン

世界EM団子の日　World　Festival　2025　EM88活動報告

東京都八王子市　小玉　浩貴

皆さん、こんにちは。東京都八王子市の小玉浩貴（こだま　ひろき）です。

私は特に団体は設けておらず、U－net会員として個人で仲間を募りワールドフェスティバルに参加しました。私は普段は柔道整復師として整体や音響ヒーリングの施術をEMと組み合わせて八王子の自宅で実施しています。依頼があれば非公開で少人数向けにEMのワークショップも自宅で開催しています。

EMとの出会いは、5年前に微生物の映画『蘇生Ⅱ』を観たことがきっかけです。現在はEMを農業、掃除、洗濯、環境浄化、健康面などあらゆることに使用しています。

EMと組み合わせた音響ヒーリングの施術

EMの活動　EMのワークショップ

6月24日に私の自宅にEM仲間6人が集まってくださり、皆でEM団子を116個作りました。団子作りの後はEMピューレの試飲会を行い、参加者に軽食やEMの梅ジュースを振る舞い、参加者が持ち寄って下さった軽食を皆で頂きながら交流を深めました。

6/24 EM団子作り　参加者6名　116個作成

6/24 EM団子作りの後の交流　EMピューレの試飲会

参加者のEM仲間からコシヒカリの苗を頂いたので、自宅裏のマコモを植えている田んぼにEMで結界を張り、田植えを行いました。

8月8日のワールドフェスティバルでは参加者と自宅裏の田んぼにEM団子100個、EM活性液31L を投入しました。事前に参加者の皆さんには日射病対策でEMピューレを飲んで頂き、塩入EM活性液やEMX　GOLDのスプレーを身体に吹き付けて頂いてからイベントに参加してもらいました。イベント終了後は自宅の畑で取れたEM野菜やEMの昼食を振る舞い、参加者が持ち寄って下さった昼食も皆で頂きながら交流を深めました。参加者からは「楽しかった」、「感動した」という好意的な感想を頂きました。

田植え（雑草取り⇒畦塗り⇒代掻き⇒結界設置⇒EM炭⇒EM活性液散布）

紐を200回左回りに巻いた整流ブロックを四隅に埋めて立体的な結界を張る

イベント終了前の様子　昼食のEM野菜やバジルソースのパン

結界を張ったお米の田んぼでは、畔が一部、獣に壊されましたが、稲は全て無事でした。EMのお陰で動物と共存できています。EM団子を田んぼに投入したら急速に稲が成長して、無事出穂してきました。

畑の作物やマコモにもどんな変化があるのか楽しみです。また、時期をずらしてEM団子の投入を予定しています。

これからも比嘉先生が提唱されている地球を救う大変革を八王子から楽しく実践して第3の道を開いていきます。

世界EM団子の日 World Festival 2025 EM88活動報告

愛知県 UNIVERSAL VILLAGE にしお 石川 知恵

1. 開催概要

2025年8月8日、「世界EM団子の日 ワールドフェスティバル2025」を愛知県半田市の半田運河で開催しました。本イベントは、「三河湾のアサリとワタリガニを再生する会」と「UNIVERSAL VILLAGE にしお」の2団体による共同開催です。両団体とも三河湾に面しており、地域の自然環境再生を目的に活動しています。

2. EMを活用した環境再生の歩み

半田運河は江戸時代に、酢や物資を江戸へ運ぶために開削された運河です。海に近く潮の干満の影響を受け、2013年頃には悪臭が漂い、生き物がいないほどのヘドロ化が進行していました。この状況を憂いたU－net半田の竹内理事の呼びかけにより、2013年から上流4km地点にて毎月約2tのEM活性液の投入が開始されました。加えて、地域住民や小中高校生と共にEM団子投入イベントが継続的に行われました。

その結果、2015年頃からはカモ類やカモメの飛来が見られるようになり、ハゼやセイゴも釣れるまでに改善しました。悪臭は大きく軽減され、2023年には運河周辺に遊歩道や新橋が整備され、マルシェなど市民活動の場へと変貌を遂げました。

3. 今回の取り組み

事前活動

施設利用相談：県環境部や港務所と連絡調整を行いました。遊歩道使用、欄干へのぼり設置や公有水面へのEM団子投入など開催要項を書面で港務所に提出しました。県環境部には電話で相談し、県環境部と港務所が連絡を取り合ってくれました。

EM団子作り：2回実施①西尾中学校ボランティア部（みどり川クリーン作戦のEM団子作成と同時に）、②UNIVERSAL VILLAGE にしおメンバーと一般参加

当日

- 投入数：EM団子2,000個、EM活性液2,000L（4キロ上流から）
- 参加者：大人20名、子ども5名、市議会議員、市職員、地元新聞記者ほか多数
- 活動の様子：団子投げの合間に散歩中の市民も飛び入り参加。子どもたちは釣りを楽しみ、多くのハゼを釣り上げ、持ち帰って調理するなど自然との関わりを実感する場となりました。

4. 意義と広がり

本イベントは「世界EM団子の日」にあわせて開催され、環境浄化の実践例を国内外へ発信する機会ともなりました。さらに7月末に西尾市で行われた「みどり川グリーン作戦」と連動し、地域の市民・市長・議員など幅広い主体が参加することで、EMを活用した環境再生の意義を社会に広く伝えることができました。

5. まとめ

半田運河でのEM団子イベントは、環境改善だけでなく、市民が交流し自然とのつながりを実感する貴重な場となった。今後もこうした取り組みを継続し、地域と世界をつなぐ「環境再生の実践モデル」として発展させて行きたいと思います。

世界EM団子の日　World　Festival　2025　EM88活動報告

コウナゴを復活させる会　三重県　山本　きし

昨年は5カ所から参加させて頂きました。 今年は7カ所拠点が増えて12か所から参加させて頂きました。

①桑名市　水辺の楽校　コウナゴを復活させる会

昨年、木曽三川公園でされたグループですが、今年はEM団子投入の許可を得られず、新しい場所を探していましたが、一緒に関わってくれた市会議員さんのおかげでこの桑名水辺の楽校で出来る事になりました。新たに会場となったところは木が多くて木陰が多くとても良いところでしたが、この木に沢山の毛虫がいて大変だったそうです。これをきっかけに、EMで毛虫対策しよう。という話しが持ち上がり、早速小川理事にご指導いただき、「土作りが大事、EM活性液の散布も継続した方がいい」 との事で、8月25日から毎日5つのグループが交代でEM散布を始めました。 いい結果を出して、行政の方や、議員さんにびっくりしてもらいたい。と頑張っています。 EM団子6，560個、300L 投入。参加者49名でした。

②四日市くじら公園

7月21日の海の日には、小川理事発信で今年も四日市ドームでのEM団子投げもありましたが、青年たちが8月8日も四日市で拠点としてやりたい。との事で、遊びに来ている人たちを呼び止めて一緒に投げたそうです。EM団子10，900個、EM活性液400L、参加者117名でした。

③鈴鹿市　白子漁港

市会議員・国会議員さん達を巻き込んでの参加となり、ご縁がだんだん広がってきています。

参加された方がEM栽培のお野菜を持ってこられ、EM団子投入後のじゃんけんゲームで景品として使われました。この日までにEMの勉強会を何回もいろんなところでされ、その勉強会を通して知り合った ゴス

ペルのグループの方達も参加され、歌を歌って盛り上がりました。 EM団子11,113個、EM活性液503L、参加人数が121名でした。

④津市 岩田川観音橋

毎月EM団子作りをしたり、環境浄化の勉強会などをしたり、地域の方に参加を呼びかけました。 7月19日に蘇生Ⅱの上映会をし、そのご縁で来てくれた方もいて昨年より20名ほど参加者が増えました。受付では、今後の活動予定のチラシと、勉強会のチラシも一緒にお配りさせて頂きました。 団子を投げている間、ローディー池田さんがトランペットを吹いて盛り上げてくれました。 抽選会の1等賞はEMX GOLD！小川理事が当選。当たって大喜びで、最後の締めくくりの挨拶をして頂けました。また、岩田川下流にある堀川ポンプ場にて1tの活性液を投入しました。 まだまだ臭いもきつく、ヘドロが堆積していますので、これからしっかりとEM投入していきます。 EM団子11,567個、EM活性液1,450L 参加者108名でした。

⑤松阪 松名瀬海岸

参加者の中には漁師さんもみえて、比嘉先生の話しを聞かれ環境浄化に興味を持たれ来年も参加したい、との事。自治会長さんの協力もあり、回覧板で今回のイベントの周知もして頂きました。これからも地元の人たちと繋がって継続していきます。EM団子5,000個、EM活性液100L 参加者は81名でした。

⑥南伊勢町 方座浦

漁師さんが協力してくれて大きな船と小さな船を出して頂き、船に乗ってEM団子投入が出来ました。大人も子供もすごい体験が出来たと喜んでいました。サザエが解禁になりましたが、全く採れない状況のようで、漁師さんがこの日をきっかけにEMに興味をもち、今、漁に出るたびにEM団子を投入しています。 また近隣の町の漁師さん達も興味を持たれたようで、新たな活動拠点が増えそうです。 EM団子3,700個、EM活性液148L、参加者50名でした。

⑦尾鷲市 白石湖

EMで美味しい牡蠣が採れるようになったことで有名になりました。後日、新聞社2社に掲載され、 ZTV（地元のテレビ）でも放送されました。EM団子3,000個、EM活性液200L、参加者40名でした。

⑧和歌山県新宮市 市田川

投入場所での行政の許可がなかなか得られず準備していたため、EM団子2,000個が投げられるかどうかでしたが、川のごみ拾いをしたらいい、との事で許可が下りました。新聞社2社が来られ一緒に投入されて記者も楽しかったようです。後日、新聞に掲載して頂きました。毎週、川の経過観察し変化を見ています。EM団子2,000個、EM活性液170L、参加者は22名でした。

⑨高知県　竹島川

はじめての拠点でしたが以前から投入されている場所です。地域との交流が出来て楽しかったです。 EM団子500個、EM活性液100L、参加者19名でした。

⑩大阪　平野川

川の許可は申請して許可頂いていたのですが、橋の許可をしていなくて、順番が回ってくる少し前におまわりさんが見回りに来られ、ドキドキしました。参加者がU－netと繋がり増え嬉しかったです。 沢山の人と繋がってこれからも継続して投入していきます。 EM団子1,260個、EM活性液100L、参加者16名でした。

⑪新潟県　鳥屋野潟放水路 こがね橋

初めての拠点で申請準備も大変でしたが、参加された皆さん、子どもさん達もとても楽しんでくれていました。来年は自分の周りの方を誘い、もっと沢山の方と一緒に参加したいです。 EM団子4，500個、EM活性液500L、参加者32名でした。

⑫兵庫県　船場川

姫路城近くを流れる船場川です。以前EM活動をされていた方と縁あって、今回拠点を整えることが叶いました。 今回、参加された方で船場川下流の自治会の方が、この世界EM団子の日の事を伝え拡げます、との事で これからの展開も楽しみになってきました。また、岡山のU－netの方で「チラシを見ました」と お電話を頂き、繋がったのでこれからどんどんご縁が拡がりそうで楽しみです。 EM団子1,000個、EM活性液50L、参加者は21名でした。

各拠点でのEM投入量の総数は、EM団子は61,100個、EM活性液は4,021L、参加人数は676名でした。 今回、初参加で初めての投入場所となったところは、南伊勢・和歌山・大阪・新潟・姫路の5カ所でした。どの拠点も、団子投入後はじゃんけんゲームや抽選会などをしてお楽しみの時間を企画したり、拠点を整える準備中や本番でもアクシデントがあったり、これからの課題も沢山ありますが、参加された方から、「楽しかった」、「また来年も参加したい」、「一緒にボランティアさせてください」と言われる声が聞こえてきています。

コウナゴを復活させる会EM投入量・参加人数

	団体名	EM団子投入量（個）	EM活性液投入量（ℓ）	参加人数（人）
①	桑名水辺の楽校	6, 560	300	49
②	四日市くじら公園	10, 900	400	117
③	白子港海をきれいにする会	11, 113	503	121
④	岩田川をきれいにする会	11, 567	1, 450	108
⑤	LMで松阪の海と川と山を美しくする会	5, 000	100	81
⑥	南伊勢	3, 700	148	50
⑦	白石湖	3, 000	200	40
⑧	市田川をきれいにし隊	2, 000	170	22
⑨	高知県	500	100	19
⑩	大阪市	1, 260	100	16
⑪	新潟環境浄化の会	4, 500	500	32
⑫	船場川	1, 000	50	21
	合計	61, 100	4, 021	676

白石湖　ZTVにて放送

白石湖　新聞掲載

南海日日新聞　8月10日

紀勢新聞　8月14日

和歌山県　市田川

日刊熊野新聞8月10日

日刊紀南新聞8月17日

河川の状況も潮の流れが変わってきて、魚や貝類も増えてきています。 皆の思いでEMさんも喜んで働いてくれているように感じます。 環境浄化活動の普段からの取り組みとして、洗濯キットの使用も大好評で、現在600個ほど作り、沢山の方に使ってもらっています。とても評判がよく、「洗いあがりがふわっとする」、「洗剤を買わなくて良いので経済的」、「毎日環境浄化が出来る」と喜んでもらっています。 EMを使った農業も各地で広がりつつあります。EMで採れたお米やお野菜は美味しいです。 農業も環境浄化につながる思いでさせて頂いています。 先日、稲刈りが終わったところもあり、早速来年に向けてのお米作りのためにEM活性液を散布投入しました。 これからも拠点が拡がり、活動者が増えるよう、継続して楽しみながら活動していきます。 今年も世界EM団子の日に参加させて頂けて感謝でいっぱいです。ありがとうございました。

@KOUNAGOWOFUKKATUSASERUKAI

コウナゴを復活させる会

世界EM団子の日　World　Festival　2025　EM88活動報告

ハワイ　オアフ島　名護千賀子

Genki Ala Wai Projectの名護千賀子です。ハワイ州オアフ島とハワイ島からの報告をさせいただきます。Genki Ala Wai Projectは、2019年から活動を始めています。ハワイのワイキキビーチと言えば、観光地で有名な場所ですが、元々ワイキキというのは、湿地帯で、タロ芋栽培や魚の養殖場でした。

ハワイ語で、ワイは「お水」、キキというのは「湧き出る」という意味で、お水が豊かな場所だったそうです。約100年前に、建設されたこの運河は人口の水路で、長さは3．2キロ。1960年代からビーチの目の前にホテルが立ち並ぶようになり、また山側にもたくさんの住宅が建てられ、運河が汚染されてきました。今では、ハワイで悪名高い運河として知られています。

プロジェクトのミッションは、「地域社会、生徒、先生、みんなで力を合わせてアラワイの生態系を回復させる」です。メンバーは6人で、30人余りのボランティアに支えられ、たくさんのイベントを開催しています。ハワイでは、EM泥団子のことを『元気ボール』と呼んでいます。20年前に、大阪の方々の『元気玉』からその名前をいただきました。 これまでに26万個の元気ボールを投入しています。

現地の40校以上の学校、地元の銀行さん、ホテル、エアラインなど100以上の企業、非利益団体とコラボしてきました。これらの企業さんから寄付金をいただき、運営をさせてもらっています。さらに、再生型観光へ向かうハワイでは、旅行業会ともコラボが盛んに行われています。日本のメジャーな旅行会社、HIS、JTB、Kintetsu、日本旅行、JALパックさんに協力してもらい、日本からの観光客の皆様にも活動に参加いただいています。月に一回、コミュニティイベントを開催し、地元の方々に元気ボールを作ってもらっています。場所は、カパフル図書館の芝。木の下に、テーブルをセットして、一回のイベントで30−100人規模で行います。元気ボールを作ったあとは、前のグループが作って乾燥させたボールを運河に投げ入れており、エネルギーのリレーと表現しています。運河を綺麗にしたいという想いの入ったボールが次のグループによって投げ入れられる、この繰り返しをしています。

世界EM団子の日は、ボランティアのメンバーが集い、ハワイ文化継承者のクムプア先生も駆けつけてくれました。今回は、子どもたちに自己紹介してもらい、それぞれの想いを話してもらいました。元気ボールは、1，000個投入しました。ふだんイベントで忙しく動き回っているボランティアのみんなも、運河を眺めながら和気藹々と、フェスバル参加を楽しみました。

フェスティバルに今年初めてハワイ島のヒロから「フレンズオブリリウオカラニ」の皆さんに参加していただきました。ハワイ島ヒロ湾、マカオクという土地がハワイ準州議会によって、1917年リリウオカラニ女王を記念する公園として指定されました。現在のリリウオカラニ・ガーデンズは、約9．7ヘクターの広さを持ち、日本庭園と茶室、そして池があります。その池でたくさんのボランティア活動が行われ、元気ボールが定期的に投入されています。写真の真ん中が、ハワイ島でEMを取り扱っているティムロイドさん、両脇は、ガーデンで活動しているスージーさんとケイティさんです。今回は、メディアにもプレスリリースを出し、新聞やネットニュースでも掲載されました。当日は250人の方々が駆けつけ、大盛況だったとのことです。
当日は、931個の元気ボールが投入されました。

ハワイ州、オアフ島、ハワイ島からのレポートでした。ありがとうございます。

世界EM団子の日　World　Festival　2025　EM88活動報告　まとめ

EM88実行委員会　青山真己

EM88実行員会(沖縄＆Hawaii)の青山真己でございます。全体の結果報告をさせて頂きます。

【発起人挨拶】

2021年より「EM団子で比謝川浄化大作戦」に取り組んでおります沖縄県地域応援団おおとり会代表の喜友名秀樹です。今年も皆さまと共に「EM88フェスタ2025」に取り組めましたこと、大変ありがとうございました。

「共催」のU－net様、「協力」の㈱EM研究機構様、比謝川をそ生させる会様、「協賛」では㈱EM研究機構様、アイソトープス㈱様、エス・ピー・シー沖縄理美容事業協同組合様、足元のお悩み解決専門シャロンフラワー様、「寄付」応援Tシャツ、多くの皆さまのご支援の元、開催出来ましたこと感謝申し上げます。

【プロジェクト内容】

「世界EM団子の日」8月8日に各地域、各国のそれぞれの河川、湖、海からオンタイムで一斉にEM団子を投入し、浄化活動を行います。その活動の様子をZoomオンラインで繋ぎ配信します。
世界中、どなた様もご視聴いただけます。

【オンタイム参加団体について】
24 団体、当日の投入に関する実施内容です。

	所在地	団体名	河川、湖、湾	参加人数（人）	EM団子（個）	EM活性液
①	沖縄県（4団体）	地域応援団おおとり会	比謝川	計83	計1.420	1ﾄﾝ
		・読谷村横田自治会		16	300	
		・沖縄市福祉文化プラザ児童センター ファミリークラブ結		21	320	
		・北谷町子ども会育成連絡協議会		15	300	
		・SPC沖縄理美容事業協同組合		8	500	
②	宮城県	EMで花と野菜づくりの集い	伊豆沼内沼の内沼砂浜の水辺	15	300	2ﾄﾝ
③	東京都	八王子 Kodama Hiroki	田んぼ	9	100	31ℓ
④	愛知県（2団体）	UNIVERSAL VILLAGE にしお	半田運河	25	2.000	2.000ℓ
		三河湾のワタリガニを再生するプロジェクト				
⑤	三重県（12団体）	コウナゴを復活させる会		計676	計61.100	計4.021
		・桑名水辺の楽校	木曽川	49	6.560	300
		・四日市くじら公園	四日市海	117	10.900	400
		・白子港をきれいにする会	白子港	121	11.113	503
		・岩田川をきれいにする会	岩田川観音橋	108	11.567	1450
		・EMで松阪の海と川と山を美しくする会	松名瀬海岸	81	5.000	100
		・南伊勢	南伊勢町方座浦	50	3.700	148
	和歌山県	・白石湖	白石湖	40	3.000	200
	高知県	・市田川をきれいにし隊	市田川	22	2.000	170
	大阪府	・高知県	竹島川	19	500	100
	新潟県	・大阪市	平野川	16	1.260	100
	兵庫県	・新潟EM環境浄化の会	鳥屋野潟放水路	32	4.500	500
		・船場川	姫路船場川	21	1.000	50
⑥	滋賀県（京都府）	Uネット琵琶湖浄化活動	琵琶湖	50	2.000	600
⑦	山口県	赤の郷きらきらふぁ～む	粟野川	20	600	10
⑧	Hawaii（2団体）	Genki Ala Wai Project（オアフ島）	アラワイ運河	25	1.000	―
		Friends of Lili'uokalani Gardens（ハワイ島）	Hilo池	250	920	―

≪沖縄県≫

≪三重県／四日市≫

≪和歌山県≫

≪宮城県≫

≪三重県／白子漁港≫

≪高知県≫

≪東京都≫

≪三重県／松阪≫

≪大阪府≫

≪愛知県≫

≪三重県／南伊勢≫

≪新潟県≫

≪三重県／桑名≫

≪三重県／白石湖≫

≪兵庫県≫

≪滋賀県･京都府≫

≪Hawaii≫

≪Hawaii≫

≪山口県≫

【ビデオレター13ヶ国】

UAE、ベルギー、フランス、コロンビア、コスタリカ、モンゴル、ロシア、モンテネグロ、クロアチア、ポーランド、ペルー、スイス、ミャンマー

【EM88フェスタ実施後】参加団体様からの感想

◇私たちにとっても、素晴らしい88の日になりました。素敵なイベントに参加させて頂きありがとうございました。

◇世界を変える意識ができました。お陰様で、皆で楽しくさせていただきました。

◇初めての主催者側で戸惑いましたが、みなさんが楽しく参加できて喜んでおります。EMさん投入後、川も綺麗な水面になり、喜んでくれているのが分かります。ありがとうございました。

◇全国の取り組みも凄くて、沖縄ももっと拡がってほしいです。ハワイのアラワイ運河も見たくなりました。
全国ツアーもしたいし、沖縄へも来てほしいです。「集まれEMファミリー！！」

【オンタイムZoom視聴】

視聴者数⇒174名

視聴参加国⇒日本、アメリカ、コスタリカ、モンテネグロ、チュニジア、韓国、ミャンマー、ペルー、マレーシア、ブータン

【報道】

Hawaii　8／6～7
告知や開催のご案内

和歌山県・三重県　8／10～17
EM団子で河川浄化活動の様子が
新聞に掲載され、地元 TV でも放送されました。
・日刊熊野新聞　8／10
・日刊紀南新聞　8／17
・南海日日新聞　8／10
・紀勢新聞　8／14

【YouTubeアーカイブ配信】

㈱EM研究機構さんよりYouTubeアーカイブが配信されました。

【ラジオ放送】（沖縄県、FMよみたん　78．6MHz）　YouTubeアーカイブにてご視聴いただけます。

地域応援団おおとり会のラジオ番組「EMワールドタイム」

≪横田自治会様　子ども達≫

≪沖縄市比謝川をそ生させる会
事務局長様≫

令和７年度ユニバーサルビレッジモデルづくりプロジェクト採択プロジェクト紹介
「三河湾のアサリ・ワタリガニを再生するプロジェクト」

三河湾を再生する会　めぐり会　代表　竹内　睦治　　実施地：愛知県

三河湾のアサリ・ワタリガニを再生する会、めぐり会の会長の竹内陸治です。昨年、西尾でご援助いただいた石川知恵さんとも一緒に活動しています。

２１年前、私は初めてEMというものを知りました。ある主婦から「これがEMだよ」と2Lのボトルを見せてもらい、何も知らずに10cc だけ分けてもらって30Lの水槽に入れてみました。１日目、２日目は何の変化もありませんでしたが、３日目に水槽の緑が薄まり、４日目の朝には驚くほど水が透明になり、タナゴが元気に泳いでいました。このときEMの力を信じました。

その後も水の浄化に取り組み、近くの池では百人ほどで汚れた底を清掃し、EMを投入したところ臭いもなくなりました。小学生たちと毎年、近くの川を浄化し続け、２０１３年には子どもの頃に住んでいた半田運河の浄化も始めました。１０年間、毎月2トンずつEMを流し続けた結果、昨年ついに運河をきれいにすることができました。昨年からは三河浄化市民塾の仲間たちと「めぐり会」を結成し、地域全体の浄化を進めています。私は80代ですが、若い人や女性のメンバーが増えたことを大変うれしく思っています。

三河湾の漁獲量はかつて日本一といわれていましたが、近年は北海道などに抜かれて2位以下に落ち込んでいます。めぐり会で集まったメンバーで漁獲量が激減した三河湾を再生しようよと一念発起！EMの力を信じてやれば出来るはずだ。まずは、三河湾につながっている自分たちの地域の河川浄化から始めました。「めぐり会」では助成金を活用し、タンクや水中ポンプ、非常用電源、ホースをそろえて、西尾をはじめ、知多半島、半田市内の公民館やコーヒーチェーン店など、各地の浄化槽にEMを投入しています。

２０１４年からは毎年2tずつEMを流し続け、昨年は冬にキンクロハジロや、海中に飛び込むカワセミまで目撃されるほど水質が改善しました。西尾の苺園や梨園からも活性液を流しています。

2025年各地から浄化活動に取り組み
知多半島　衣浦湾から

大府から　森本さん
衣浦湾最奥部から浄化→衣浦湾

河和　宮本さん　障碍者施設の浄化槽
→　衣浦湾・三河湾へ

地域の公民館・コーヒー店にお願いし、浄化槽
→矢勝川の浄化→衣浦湾→三河湾へ

半田 岩滑新田公民館の浄化槽→ 矢勝川→衣浦湾へ

コーヒーチェン店の浄化槽→矢勝川
→衣浦湾へ

半田岩滑　阿久比ポンプ場のプール借用
2014年から10年余　毎月２ｔのＥＭ活性液放流

ポンプ場から２t/月 11年継続

突然キレイに成った半田運河

2024年　10年目で突然キレイに成った
半田運河→半田港→衣浦湾→三河湾

冬にはキンクロハジロ[鴨]が飛来

夏には海水のある所までカワセミが
飛来し飛込み魚を捕食！

しかし、三河湾のことを調べてみると大変なことが判明しました。三河湾の水量は約55億トン、伊勢湾は約339億トンとトンでもない数字で、プールの浄化の比率を参考にして単純計算しても、沿岸周辺の15%にEMを流すには毎月1,222トンが必要、しかも毎月投入するには１トンタンクを1,222個並べる必要があり、水の調達も、運搬も難しく、こりゃだめだ、無理だと一度は諦めかけました。

ところがある日、EMの神様のお告げで15年前に先輩方が蒲郡の銀波荘（ホテル）の浄化槽にEMを投入してアサリを復活させた事を思い出し、銀波荘とEM再投入の交渉したところ OK を頂き、毎月、浄化槽から1,080トンのEM処理水を放流できることになりました。さらに、8年前からEM活性液製造用にシロップを分けて頂いている食品加工工場に相談したところ、工場の800トンの浄化槽にEMを試験投入していただけることになりました。非常にラッキーでした。

EMを投入する前の昨年2024年は、浄化槽から汚泥が毎月12,000～14,000トン発生していて、実は工場ではこの汚泥の処理に困っていました。

今年2025年4月、浄化槽へのEM投入を開始しました。4月に650L、5月に6トンのEMを入れたところ、汚泥量が5月は5,800トン、6月も5,800トンと前年に比べて汚泥発生量が半減しました。

この結果に工場の方にも汚泥処理費用が削減されると大変喜んで頂き、EM投入の継続が決定しました。同様の実験をした牧場の浄化槽でも汚泥量は約3分の1に減り、EMの効果を確信しています。

このEM処理した浄化槽から出る放流水をEM研究機構で分析してもらったところ、塩素消毒していないにもかかわらず、大腸菌数が9個と極めて少なく、法定基準値の800個以下を余裕でクリアしていました。また、放流水には多様な有機物を分解する能力を持つ微生物群集が存在することも確認されました。

当工場では衛生管理が十分にされていることから、塩素殺菌せずにEM処理水が放流できています。すなわち、毎月5,000トン余りのEM処理された放流水が隣の川から三河湾へ流れてゆきます。

愛知における昨年のアサリ漁獲量は、ピーク時の8%にまで落ち込み、北海道にも後れを取ってしまいました。その新聞記事によると、水産課の担当者は工場の排水規制などで水質浄化が進み「植物の栄養素となる窒素やリンが減った影響などが考えられる」と話しているそうです。水質浄化や水温上昇などの逆境とも思える状況ではありますが、三河湾の100万分の1程度の希釈率に当たる5,500トン以上のEM放流を実現できました。このEM放流を続ければ、1年後に稚貝、稚魚が生まれ、2年後に次の世代が生まれ、3年後には生き物が再生できると信じています。

「三河湾のアサリ・ワタリガニを再生するめぐり会」は、アサリ・ワタリガニだけでなく、すべての魚介類の再生を目指し、今後も活動を続けます。EMさんお願いします。EMさんありがとうございます。

ラッキーでした！　大型浄化槽の協力！

800トンの浄化槽側面
食品加工工場の浄化槽群

食品加工工場の800トン浄化槽の一部
100トンの曝気槽が何列も並ぶ

800トンの浄化槽にEMを投入したら汚泥が半減！

工場の方にも汚泥処理経費が削減されると大変喜んで頂き、EM投入の継続が決定

前年実績　2024年	3月	4月	5月	6月	7月
EM投入量(トン)	0	0	0	0	0
汚泥回収量(Kg)	12,200	14,400	13,800	12,600	10,000
放流水量(トン/月)	5,952	5,760	5,952	5,760	5,952
本年実績　2025年	3月	4月	5月	6月	7月
EM投入量(トン)	0	0.65	6	3	9
汚泥回収量(Kg)	18,000	14,800	5,800	5,800	5,600
放流水量(トン/月)	5,952	5,760	5,952	5,760	5,952
汚泥回収量前年比%	159.6%	102.8	42.2%	46.0%	56.0%

当工場は衛生管理充分なため塩素殺菌無しでOK!
EM処理された毎月5,000トン余の放流水が隣接する川から→三河湾へ!

毎月、三河湾の 100万分の１のEMを放流できる様になった！

- 蒲郡温泉　銀波荘(ホテル)の浄化槽
  ８月からEM活用OKになり
  １,０８０トン/月の放流も実現

●55億トンの三河湾に、その毎月100万分の１に当る5,500トン以上のEM活性液放流が実現できました

三河湾の再生はEMの力で！

- **三河湾の生き物を再生が出来ると、信じて！EMを放流**
- **大型浄化槽の参入で実現**

１年後 稚貝、稚魚が生まれ

２年後 次の世代が生まれ

３年後 生き物が再生出来る

「真・EM生活の実践と探究」

EM研究機構 海外部　福居　領一

EM生活とは何か？

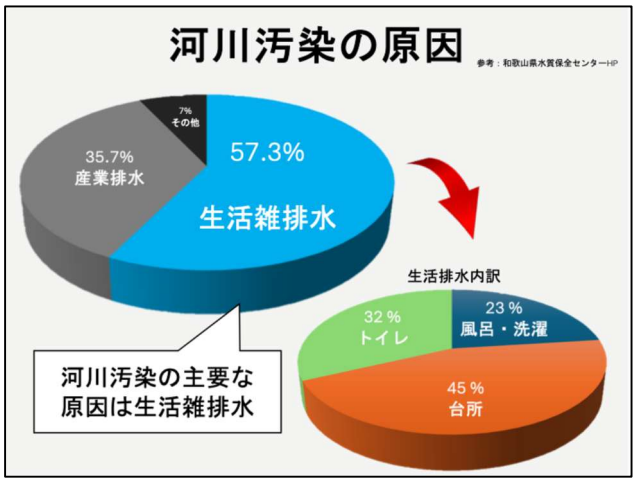
多くのU－net会員の皆様は長年にわたりEMの活動に携わる中で、日常の生活の中でもEM生活を実践されていることと思います。しかし、「EM生活」と言ってもその範囲は多様で、どのレベルでEM生活を実施しているかは、ユーザーによって異なります。

例えば、EMセラミックスを麦茶のポットに入れているだけでもEM生活と言えますし、掃除や洗濯にEM使うこともEM生活です。さらに熱心なユーザーはEMバナナピューレや酵素ジュースを自作して摂取している方もおり、それらもまた重要なEM生活の一環と言えます。その他にも、EMを使った家庭菜園、生ゴミ処理、EM食材の摂取、EM化粧品の使用なども一般的なEM生活の例として挙げられます。

そもそもなぜEM生活をするのかという理由の一つが、EMによる快適で健康的なライフスタイルの追求であるため、上記のようなEMの活用法が「EM生活」として認識されています。

しかし、そのEM生活は果たして環境のためになっているだろうかと言う視点を、ここで検討してみたいと思います。使用したEMが環境中へ流れ出なければ環境への影響はありません。そのため、麦茶のポットにセラミックが入っていても、家の掃除にEMを使っても、あるいはEMX GOLD を飲んでも、EMが環境浄化に寄与する場面は与えられないのが現実です。本来、環境浄化を目的に存在するEMがその役割を果たせないというのは、EMにとっても惜しいことではないでしょうか。

環境浄化的EM生活



では、私たちの生活において、どのようにEMを活用すればその環境浄化の力を活かせるでしょうか。

私たちは日常的に排便し、洗濯、洗髪や食器洗いなどでさまざまな合成洗剤を使用しています。ある資料によれば、日本では1年間で約900万tの糞尿と、約120万tの合成洗剤が使用、排出されているそうで、これらを含む我々の家庭から出る生活雑排水が、河川や海の汚染の主要な原因となっています。

したがって、トイレや風呂、台所を使用する度にEMを流す事ができれば、汚染の原因となる生活雑排水を浄化の手段として変えることができると考えられます。下水に流されたEMは下水管を通り、下水処理場で揉まれ、川へ合流し、生活雑排水や河川のヘドロを分解しながら、最終的に海へと達します。

この過程でEMやEMが分解した汚染物は、他生物に食われるなどして生態系の中に取り込まれ、生物多様性へと変化し、その影響は時間の経過と共に広がっていきます。

EMと生活雑排水は、流したその日には変化が見られなくても、数ヶ月後にはアジやイワシ、さらに数年後には無数のタイやヒラメに姿を変えているかもしれません。これはいわゆるバタフライエフェクト（初期条件の小さな違いが、将来大きな変化を起こすこと）であり、このEMの因子は永続的に生態系の中で形を変えながら伝わっていくことになります。

河川へ直接EMを投入するという浄化活動は、資材の準備や人員の動員にコストがかかります。事情により活動に参加が難しいという会員の方も中にはいるでしょうし、こういった社会的な浄化活動はEMの否定的意見者の批判に晒されるリスクもあります。

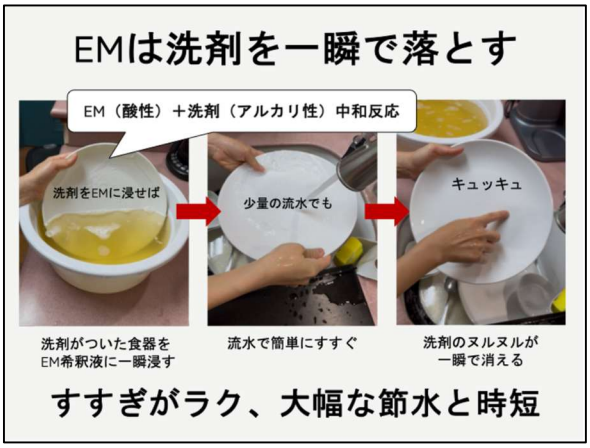
しかし、家のトイレや風呂、台所からEMを流すということは、誰でも家に居ながらにして毎日できる活動でありますし、他人には知られることがないため、誰からも批判を受ける理由がありません。
自身の出す便や洗剤などの汚染を自身で責任を持って浄化し、自然に返すという日々の行動を多くの人々が取り組めた先に、私たちが目指す「地球を救う大変革」という大事の達成があるものと思います。

そのため、トイレや風呂、台所で常にEMを使う習慣を持つということが重要になります。次にその具体的な実施方法について見てみましょう。

環境浄化的EM生活の実施方法

- **トイレ：排便時に便器にEM活性液を流す。**
- **風呂：シャンプーやリンス、ボディーソープと共にEM活性液を流す。**
- **台所（食器洗）：台所洗剤と共にEM活性液を流す。**
- **台所（米研ぎ）：米の研ぎ汁と共にEM活性液を流す。**
- **外出先：ソフトワンタッチボトル（100ml）にEM活性液を入れて持ち歩き、外出先のトイレ、風呂、台所、川や海に流す。**
  （一回あたりのEM活性液の使用量は10ml～100mlが目安となりますが、より多い方が効果的です）

以上の5つになります。
トイレでは、排便時にEMを便器に散布し、便と共に流します。風呂では、洗髪や洗体の際にシャンプーなどの洗剤と共にEMを流します。食器洗いでは、EMは濯ぎの際に使用します。EMを薄めたオケを用意し、それに洗剤で擦った食器を一瞬潜らせてから水で濯ぐと、食器についた洗剤のヌルヌルと汚れを一瞬で落とす事ができます。これはEMが酸性であるため、アルカリ性の洗剤と中和反応し、洗剤は界面活性効果を失うためです。これにより、濯ぎにかかる水と時間の大幅な節約が可能です。
米の研ぎ汁をそのまま流すと、米の研ぎ汁に含まれるリンが川や海の水質汚濁やアオコ、赤潮の原因になる事があります。そのため、米を研ぐ際には研ぎ汁にEMを混ぜて流します。
これらを円滑に行うために、EMを入れたペットボトルを風呂、トイレ、台所の隅にあらかじめ置いておくと使用しやすいです。



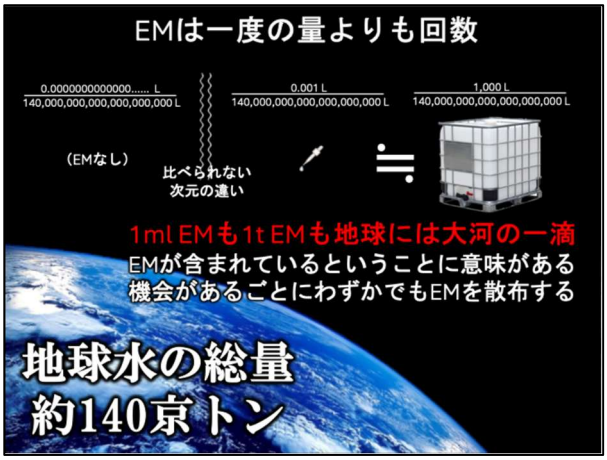
外出先でのEM使用

EM生活は自宅での使用に限定されず、職場や外出先でも活用することが理想ですのでEMを持ち歩く必要があります。
そこで、ダイソーで手に入るソフトワンタッチボトル（100ml）にEMを入れて携帯し、外出先のトイレや風呂、台所、さらには川や海などに機会があれば少量でもEMを流すということを行います。
これまで、私は機会があって訪れた空港、サービスエリア、ホテル等でも持参したEMを撒いてきました。
余談ではありますが、2024年5月1日、ドジャース 対 Dバックス戦で大谷翔平を観戦するためフェニックス・チェイスフィールドに出向いた際にも球場のトイレと手洗い場

でEMを使用しました。大谷の成績は5打数1安打で、残念ながらドジャースは負けてしまいましたが、あの日EMは大谷翔平と同じ空の下にありました。
　このように自身がいつ、どこで用を足したかなどは、普通であればすぐに忘れ去られることであっても、EMを出先のトイレに流すという習慣を持っていると不思議といつまでも覚えている事があり、時にそれは深い思い出にさえなることがあるというのは、これを実践している者のみが知る楽しみであります。

わずかなEMに意味はあるのか？

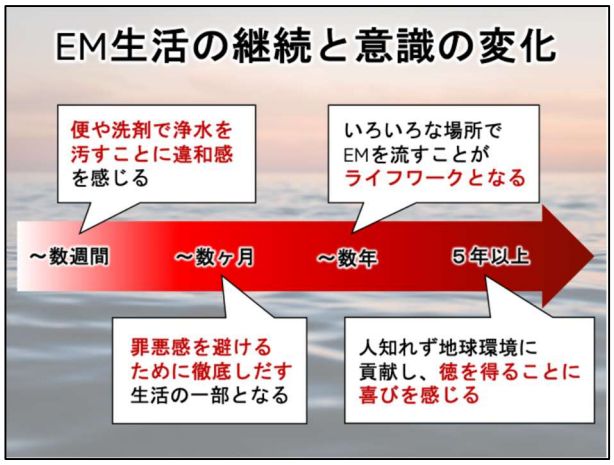
　私は少量であっても機会があるごとにEMを流しましょうと提案しました。
　しかし、これを読まれた皆様の中には、「河川や海を浄化するには何t単位のEMが必要なのであって、わずかなEMを撒くことに意味があるのだろうか」と疑問に思う方がいるかもしれません。
　これを地球規模で考えてみましょう。地球の水の総量は約140京tとされており、この膨大な水量の前には、たとえ1tのEMも1mlのEMも、同じく大河の一滴になってしまい、その量に多少の違いはないものとなります。むしろ、何もしないということは、EMはゼロであり、ゼロと1の間には無限の開きがあることを思うと、EMがわずかでも入っていることと、全く無い、ということの違いは比べられない違いであることをご認識いただきたいと思います。



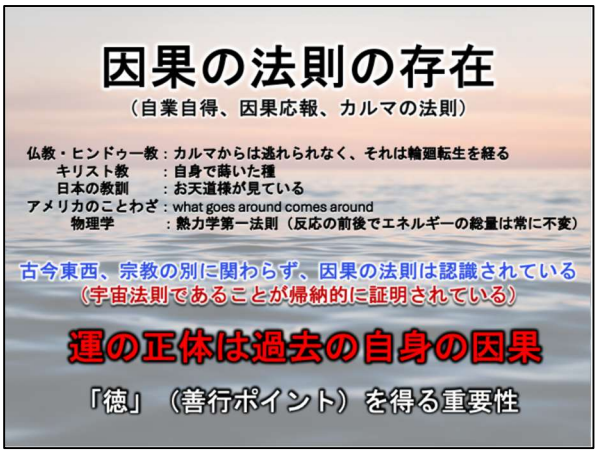
　したがって、わずかであっても、そのEMの一滴には価値があり、機会があるごとに回数を重ねて散布するという事が重要になります。

EM生活と意識の変化

　私が、自宅や外出先のトイレや風呂、台所にEMを流すことを始めたのは8、9年前のことです。
　振り返ると、自身の中で意識の変化があり、その過程が大変興味深く、EM生活の継続の上でとても重要なステップであると感じていますので、ここでご紹介をいたします。
　トイレや風呂、台所からEMを流す生活を始めて数週間のうちに、自身の便や洗剤で浄水を汚すということに違和感を覚え始めました。さらにこれを数ヶ月間続けるうちに、違和感は次第に嫌悪感になり、そして罪悪感へと変わりました。
　この罪悪感が心の中で育つと、EMを使わずに浄水を汚すことを心が許さなくなり、徹底してEMを生活雑排水に混ぜて流すという行為が完全に生活の中に定着しました。
　これがさらに数年経つと、家の中だけでなく外出先でもEMを流さなければ気が済まなくなり、縁あって訪れた土地でEMを撒くことが自身のライフワークとなって、ついには「大谷翔平の球場のトイレでEMを使った！」といったことに、人知れず喜びや楽しみを感じるようになりました。
　そして、この生活を5年ほど続けた頃、このEM生活の実践は、単に地球の浄化に貢献するということだけに済まず、実施した者の人生の価値や幸福感を実際に高める影響力を持つということを感じ始めたのです。ここで少し別の側面からEM生活をする意義についての考察をしてみたいと思います。



因果の法則



皆様も因果の法則について、ご存知のことであると思います。

因果（カルマ）は、古代からすでにお釈迦様がその重要性を説いており、キリスト様の教えにも「自分が蒔いた種を刈り取る」という、原因に応じた結果が自身に帰るという考え方があります。英語圏では"What goes around comes around"という自業自得を指すことわざがあります。少々こじつけに感じるかも知れませんが、物理学では「反応の前後でエネルギーの総量は常に不変」という熱力学の第一法則が物理の原則として知られており、これは「とった分だけ、とられる」、「与えた分だけ、与えられる」という因果の巡りを物質とエネルギーの観点から説明していると解釈することもできます。

このように、東西の宗教や哲学、ある意味においては物理学でも因果の法則の存在が認知されており、この事実は因果の法則が宇宙を支配する普遍的な原則である可能性を示唆しています。したがって、因果の法則によれば、悪徳が悪運を引き寄せ、善徳が善運をもたらすという現象が、観念論ではなく、この現実において物理的に起こり得るということが考えられます。

ところで、比嘉教授は「日本の真髄―量子力学から見た天壌無窮の真実」（2019文芸アカデミー）のご著書の中で教育勅語の重要性について論じられていますが、実際、教育勅語こそが因果の法則（徳と運の巡り）についての実践的な方法について説明したものであるということが言えます。

教育勅語（教育ニ関スル勅語）のウィキペディアの項には「難解であるため複数の解釈が存在する」とありますが、因果の法則が現実に存在しているという観点からこれを解釈すると、非常にシンプルに理解することが可能です。それを裏付けるように、本文中には、「徳」という言葉が3箇所、「運」という言葉が1箇所で登場しています。

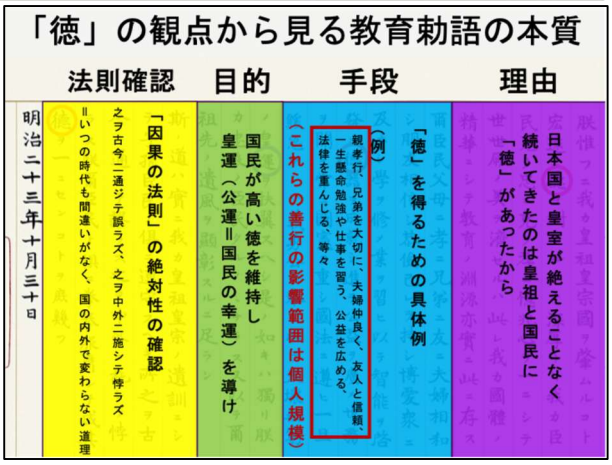
EMの地球浄化の善徳がどのように巡るかという理解を深めるために、皆様と一緒に教育勅語を読み解いてみたいと思います

「徳」の観点から見る教育勅語の本質

本題に入る前に、次の点を理解していただきたいと思います。

日本の天皇家は万世一系であり、今年の令和7年は神武天皇が即位してから2，685年目を迎えます。これは、王朝の交代や革命が頻繁に起こる他国と比べると非常に稀有なことであり、この継続性は偶然ではなく、何かの法則や作用が関与しているからこそ、今日まで存続しているということが示唆されています。

このような背景を理解した上で、教育勅語の本文を4つのパラグラフに分けて見ていきましょう。



＜第一パラグラフ（理由）＞

ここでは、日本国と皇室が今日まで連綿と続いてきた理由として、天皇家の先祖と国民の「徳」が強調されています。したがって、国民は日常生活において「徳」を身につけることの重要性を説いています。

＜第二パラグラフ（手段）＞
　このパラグラフでは、「徳」を得るための手段についての具体的な例が列記されています。例えば、親孝行、兄弟・友達との良好な関係を築く、夫婦和合、身を慎む、博愛精神、仕事や勉強に励む、公共の利益を広める、憲法や法令を遵守すること、などが挙げられています。
＜第三パラグラフ（目的）＞
　以上の取り組みにより、国民が高い「徳」を維持することで、天壌無窮の皇運に導きましょうという重要な目的が述べられています。皇運とは、広い視点では国や国民全体の幸福と繁栄のことであり、国民の善徳の積み重ねがこのような国全体の幸運に繋がるとしています。
＜第四パラグラフ（法則確認）＞
「之を古今に通じて誤らず、之を中外に施して悖らず」という一文で教育勅語は締め括られます。この意味は、この教えが時代を超えて不変であり、外国においても通用する道理であることを示しており、まさに因果の法則の不変性と普遍性を確認する内容であることが言えます。

　以上が教育勅語の私の簡単な意訳になりますが、ここで確認することとして、第二パラグラフで挙げられている徳を得るための手段は、確かに重要な行いではありますが、その善行の影響範囲は個人規模の限定的な行いであることが言えます。例えば、私が自分の親兄弟を大切にすることは、私にとって善徳が及ぶことかも知れませんが、それ以外の第三者には直接的に関係がないということが言えるかも知れません。
　EMに話を戻しますと、その点において、EMで河川や海を浄化するという行いは、それら水系に住む生命全体に関わり、ひいては人類にも影響をもたらす事であるため、地球規模の善行であると言え、そこから得られる善徳も非常に大きなものであるということが因果の法則から言えます。そのようにして得た善徳で、「天壌無窮の皇運（皇運＝公運＝全体の幸運）を扶翼すべし」、日本と世界を幸運に導きましょう。そして、「之を古今に通じて誤らず、之を中外に施して悖らず」、これは宇宙法則なので、決して間違いがないことです、と教育勅語をEMの徳の観点から新しく解釈することは可能であると考えます。そして、これこそが、比嘉教授が「日本の真髄」のご著書の中で述べられた「天壌無窮の真実」であることと思います。

環境浄化的EM生活をする理由

　なぜ私たちがEM生活をする必要があるのか、改めて確認をしたいと思います。
　私たちEM研究機構や U ネットの皆様は環境汚染の解決策をすでに知っている、あるいは今日これを読まれて新たに知ったわけです。そして、答えを与えられている私たちにはそれを実行する責任があると考えます。さらに、私たちが「地球を救う大変革」という大事を成し遂げるためには、努力や能力以上に物事や時節を掴むための様々な意味での運の助けが必要であると考えます。その運を引き寄せるために、常にトイレや風呂、台所からEMを流すという日々の地球浄化の積み重ねが重要になります。もしかすると、実はその取り組みこそが、「地球を救う大変革」であることが後から分かった、というオチかもしれません。
　以上が環境浄化的EM生活をするべき大きな2つの理由として、ここに明確にさせていただきました。

まとめ

　皆様に今日から実践していただきたいことのまとめです。
　自宅で、トイレから便と共にEMを流す、入浴の際にシャンプーやリンス、ボディーソープと共にEMを流す、食器洗いの際に洗剤と共にEMを流す、米研ぎの際に研ぎ汁と共にEMを流す。

そして、ダイソーでソフトワンタッチボトル（100ml）をご準備ください。これにEMを入れて持ち歩き、外出先でどこでも機会があればEMを流すということを徹底していただきたいということです。

一度に流すEM量は多い方が良いですが、これは皆様のできる範囲で結構です。（初めのうちは一度に10ml～100mlが目安となります。）重要なのは、このEM生活を今日からずっと続けていただくことですので、日々無理なく行っていただくためにも、少量であってもまずはできる範囲から始めていただきたいと思います。

この取り組みを数週間、数ヶ月と続けていただけますと、必ず意識の変化が起きます。EMなしで浄水を汚すことに対する違和感、次第に嫌悪感が出てきて、それが罪悪感に変わります。この罪悪感があれば、EMを徹底して使う心境に自動的になりますので、その心境を目指して、無理のない範囲から意識して続けていただきたいと思います。

節子奥様が残した教え

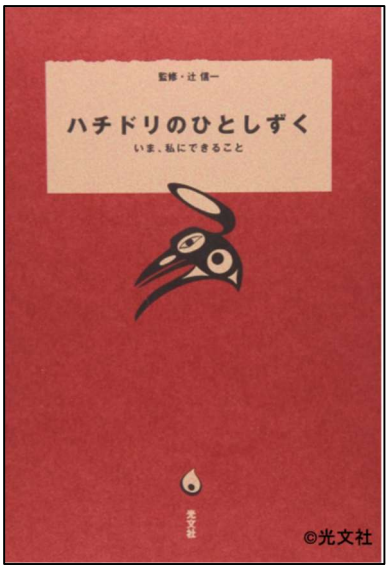
最後に、節子奥様とのあるエピソードを皆様と共有したいと思います。

比嘉節子さん、比嘉教授の奥様であり、2022年に残念ながらお亡くなりになりました。

ちょうど20年前のことです。当時、琉球大学の学生だった私は、毎朝、比嘉教授のご自宅の花の水やりの当番をしていたことがありました。

ある日、水やりを終えて帰ろうとした時に節子奥様に呼び止められ、ベランダである絵本を読んでくださったことがありました。節子奥様は、「この本に書かれている精神でEMの運動をするのよ」と、おっしゃっていたように思います。

節子奥様からの皆様へのメッセージとしてご紹介します。



ハチドリのひとしずく　（監修：辻信一　発行：光文社）

南アメリカの先住民に伝わるお話です。
森が燃えていました。
森の生きものたちは　われ先にと　逃げていきました。
でもクリキンディという名のハチドリだけは　いったりきたり。
くちばしで水のひとしずくを一滴ずつ運んでは
火の上に落としていきます。
動物たちがそれを見て
「そんなことをして　いったい何になるんだ」といって笑います。
クリキンディは　こう答えました。
「私は　私にできることをしているだけ」
森が燃えているのを見たハチドリは仲間を増やそうと思いました。
「それぞれが1羽ずつ仲間を増やすように伝えて」
2回伝わると4羽が　3回伝わると8羽が
10回伝わると1024羽が　20回伝わると100万羽以上が
そして40回伝わると1兆羽以上のハチドリがやってきて
あっという間に火事を消してしまいましたとさ。
（翻案：枝廣淳子）

もし、これを読んでくださった皆様がEM生活の本当の意義とその価値に気がつき、それを実践し、さらに広めてくださったとしたなら、まさに望外の喜びであります。クリキンディとしての役割を果たすことができましたと、天国の節子奥様にご報告ができるものと思います。

ですので、ハチドリのEMひとしずくの生活をこれからみんなでしていきましょう、というのが本稿のまとめになります。最後までお読みいただき、誠にありがとうございました。EM生活の実践が皆様に幸運をもたらすことを願っています。

「講評」

Ｕ－net理事長　比嘉　照夫

これまで、EMのことを色々とお話ししてきました。EMあるいはEM技術は、地球のみんなの財産にせよと、私が天から預かったもので、世界各地にEMを普及して来ました。

今日、福居君が発表した不思議な現象というのが、当初、これが何なのか分かりませんでした。また、従来の学問で云うところの統計処理等をすると本質が見えてきません。EMは、これを使う人の意志によって、例えば作物が良く成長したり、あるいはまったくダメだったりします。したがって、従来の科学的方法ではEMの本質を証明できないのです。私のコラム（*DND 上連載「甦れ！食と健康と地球環境」第218回 2025年9月更新*）でも述べていますが、これは現代科学の罠と称しており、例え良い成果を上げても従来の科学では受け入れてくれない。私たちが福島で取り組んだ、放射能汚染対策で、EM栽培によって作物への放射性物質の吸収抑制が確認されたことや、放射性物質が消滅した事実が挙げられます。

私は、常に現場で起こっている事実を見て来ました。そのため、学問的云々よりも、目の前で起こっている事実を優先すべきであり、この事実を多数発現させることにより、世界中に沢山広がると確信していました。しかしながら、EMは科学的ではないと批判するものが多かったのですが、私はEMによる素晴らしい成果を確認していますので、どのような批判があっても、EMを地球全体に広げなければというのが私の信念です。時間とともに、EMは今では20年30年と経過しましたが、その間に実績が多数出来上がり、これを認めざるを得ない状況になっています。その良い例が、本日発表のあった竹内さんです。ご自身の実践を通してEMの効果を確認し、今では三河湾の浄化に自信をもって活動されるようになっています。

また、本日は世界EM団子の日の活動で各地からの報告がありました。今では、EMは世界中に広がっていて、これを実行するということに批判はありません。しかし、過去にはEMという訳の分からない微生物を使っていると誤解され、世間の理解が及びませんでした。EM浄化活動の結果を見せても、データを出せというお粗末な状況で、EMできれいになった現場を見てもこれを認めないというのが度々ありました。これが、学問または科学の罠に侵された方々の批判で、現実の力を見極める目が養われていないのです。

繰り返し話していますが、EMは生物学の世界であり、扱う人の意志に反応します。EMで上手く行かないときに、EMさんお願いしますと、微生物（生物）にスイッチを入れることで上手く状況が変化することがあります。このような不思議な反応がEMを使っているとみられることがあります。そのようなEMの成果を世界各地で確認するなかで、EMの本質を従来の科学で証明するには役不足だと分かってきました。EMの効果は、どうやら素粒子の世界であり、現状のサイエンスは元素や有機物の世界なので及びません。元素の先には素粒子があり、素粒子の世界は天使も悪魔もいるような、何でもある世界です。人間の世界でいうところの祈りが、このような現象を発現させるためのエネルギーとして集約されます。

世界EM団子の日を通じて、あらゆる分野の方々の知恵が集約し、新しい世界が出来上がることに繋がります。環境団体や教育機関だけでなく、観光分野や新しい視点での連携を広げることが重要です。今回の各地からの報告で、ようやくここまで来たのだと感心しています。世界EM団子の日の活動を量子力学的視点で解説すると、環境浄化に対する関係者の想い＝意識がつながる、すなわち、エンタングルメント（量

子もつれ）となります。これはお祈りの世界も同様です。その次には、つながった後にはエネルギーが上がる必要があり、エネルギーが重なって行く、これが量子うなり（コヒーレント）です。このエネルギーを高めるためには、1度や2度ではなく、何万回も回数を重ねることが重要であり、大きいも小さいも関係ありません。例えば、1tのEM活性液を海に投入すると回数は 1 回ですが、これを1Lずつに分けて投入すると回数は1000回となります。量子力学の世界で云う、重ね効果（＝パイこね変換）となります。

すなわち、今日の福居君の発表の通りで、少量でも回数を重ねることで、EMのエネルギーはその回数分高まって行くことになります。このようなエネルギーはあらゆる分野に重ねることができますが、量子力学の世界では、その効果を観察することが重要でとなり、これができるのが人間だけです。

EMを取り扱うなかで、良い成果を思い（エンタングルメント＝量子もつれ）、良い成果を願って（コヒーレント＝量子もつれ）取り組むことが重要となりますが、もうひとつ核となるのが、みんなが繋がる元のような存在、現段階ではどのような表現が適切か迷いますが、いわゆるトンネル効果となるものが機能することが必要です。

EMを構成する性質の異なる微生物（乳酸菌、酵母、光合成細菌等）は、量子的動きをしますので、福居君が発表したように、私たちがEM生活を実践することで、環境中にEMが投入され、自然環境が浄化され、生態系が復活し、生物多様性が豊かになることに繋がります。すなわち、EMの微生物が定着することは、環境中に量子力学的性質が安定化されるということです。これは、屋内や屋外、広くは私たちの住む環境中にも同様に広がるのです。

EMを使った人は、EMの効果による楽しみや様々な余得の発現を受けていますので、今日、発表された竹内さんや宮城県の平野さんは、様々な問題、例えば汚染された場所を、EMで浄化源として活用し自然生態系を豊かにして浄化することで、このような問題を解決しています。

U ネットでも、日本橋の活動を通じてEMを6，000tくらい投入し、東京湾を浄化しました。このように、EMを活用することで皆さん蘇生型に変わるわけです。多くの皆さんのそのような想いが集約することで、重力波的なところから素粒子のエネルギーを集約して高めて行くときに、EMを構成する微生物が環境中に定着していれば、環境中で量子力学的な機能を発揮させ、汚染を浄化し、生態系を復活させ、生物多様性が豊かな環境が創れることになります。今日の発表を機会に、会員の皆さんのEM力がさらに高まることを期待しています。

★令和７年第４回ＥＭ技術セミナーダイジェスト版
動画視聴のご案内（会員限定）

９月５日に開催されました第4回EM技術セミナーでの発表をまとめたダイジェスト版動画を配信します。配信期間中はインターネットに繋がるパソコン、スマホがあれば、お好きな時間にダイジェスト版動画を視聴できます。

【配信期間】 10月24日(金)の朝9時～10月27日(月)の夜9時まで

視聴をご希望される会員の方は10月20日(月)までにお名前と、「ダイジェスト版視聴希望」と標題に明記の上、事務局（info@unet.or.jp）へメールにてご連絡をください。
視聴用 URL は10月23日(木)に事務局よりメールにてお知らせいたします。

海の日、世界EM団子の日の活動報告のご紹介

会員の皆様らから届いた環境浄化活動報告書から一部抜粋してご紹介させて頂きます。

★千葉県船橋市の杉浦文吾様からのご報告です。
　7／21にお一人で近所の木戸川にEM団子20個、EM活性液を3L 投入し、8／9はEM団子32個を投入しました。

★NPO 法人三陸自然環境新産業プラットフォーム代表理事、本会理事の今村正様からの報告です。
　7／21に岩手県宮古市を流れる山口川にEM団子2，000個を2名で投入しました。

事務局では会員の皆様が取り組んでおられる様々な環境保全活動についてのご報告をお待ちしています。メールでコメントと写真を送って頂けると嬉しいです。よろしくお願いします。

茨城県　NPO 緑の会の活動報告

　8月24日に緑の会会員様10名と、堆肥場近くの高校からボランティアとして8名の生徒さん、そして、市の環境課の方が1名参加し、緑の会堆肥場でEM団子づくりと団子投げをおこないました。
緑の会、事務局の矢野さんからまずは座学として緑の会の紹介、EMについての紹介、EM団子の活用事例などが紹介され、その後実際にみんなで団子づくりを行いました。団子づくり中には丸い団子だけでなく、ハート型を作ったり、団子に顔を作ったりと楽しく作業を行う事が出来ました。

　その後、別の日に作成していたEM団子を、NPO 緑の会堆肥場脇を流れる川(小貝川、利根川の間を流れる小川で利根川に至る)へ参加者全員で450個投入しました。投入する時も「EMさんありがとう」「EMさんよろしくね」と声をかけていました。
　一緒に団子づくり、団子投げを行った高校生は皆でボランティアとしてこのような環境浄化活動が出来てよかったと述べていました。また、NPO 緑の会会長の綱島さんからも、このような活動をとおして、環境のことを考えるきっかけになってくれればいいなと高校生にお話しされていました。

【NPO 緑の会ホームページ：https://npo-midorinokai.info　】

事務局からのお知らせ

■Ｕ－net総会現地参加者向けホテル予約開始日のお知らせ

Ｕ－net第27回通常総会は、来年2026年2月26日(木)に沖縄県のEMウェルネス 暮らしの発酵ライフスタイルリゾートにて開催を予定しております。
通常総会へ現地参加をご予定いただいています会員の皆様限定の、ホテル宿泊プラン予約開始日は10月中旬予定しております。
宿泊予約開始日が確定しましたら、本会ホームページのインフォメーション欄にお知らせを掲載すると共に、次号のＵ－net通信にて詳細をお知らせいたします。どうぞよろしくお願いします。

■医師の杉本一朗先生が本を出版されます。

横浜 EM ウェルネス構想 “EM ユニバーサルビレッジ横浜”づくりを進められている横浜ウェルネス構想有志の会会長で、医師の杉本一朗先生が執筆された書籍「なぜ日本人だけが“病気をやめられないのか？」【上巻・下巻】がヒカルランドより 10 月 20 日に出版予定です。
下巻には・EM 技術、バイオフォトン、量子場理論―“微生物と共鳴する身体”という新しい生命観など、杉本先生とEM・比嘉先生との出会いのエピソードも含めて、EM 技術の重要性、EM と量子についてもわかりやすく書いて下さっています。

本書の予約は Amazon 等から可能です。

★令和７年第５回ＥＭ技術セミナー開催のお知らせ(会員限定)

令和7年第5回EM技術セミナーを令和7年11月7日(金) 14時～16時に開催します。
セミナーへの参加申込は令和7年10月3日(金)から当会のホームページ(http://www.unet.or.jp/)のインフォメーション欄から受付を開始しておりますので、お申込み専用ページからウェビナー登録いただきますよう、お願い申し上げます。**お申込みの締め切りは令和7年11月6日(木)**です。
　なお、セミナーのプログラムにつきましては、後日、当会のホームページでお知らせします。
※令和7年第5回EM技術セミナーはＵ－net会員様限定の配信となっております。
　ウェビナー登録時、ご記入いただくお名前と会員様のお名前が違う場合、参加登録が出来ない事がございますので、ご注意ください。また、グループ、法人会員の皆様は、氏名に加えて、所属するグループ名または法人名を記載いただきます様、お願い申し上げます。 **例） 姓 ○○の会 名 地球太郎**
ウェビナー登録についてご不明な点がありましたら、Ｕ－ｎｅｔ事務局にお問合せ下さい。

問い合わせ先 E-mail：info@unet.or.jp **電話番号**：098-923-2600